

I 実践

1 研究主題

他を思いやり、夢や希望をもって生きる児童の育成  
 一命を大切にすることをはぐくむ道德教育の実践

(1) 主題設定の理由

本校では、児童一人一人の個性、可能性を大切に「生きる力」の育成を目指している。生きる力を自ら学び自ら考える力、他人を思いやる心、たくましく生きるための健康や体力と捉え、日々の教育実践に当たっている。しかし、日常生活の中で自己中心的な考えや、友達を思いやる気持ちが足りない面など、規範意識に欠ける面が見られる。

そこで、児童一人一人のよさを大切にしながら、一人一人が温かい心で生活を送れるように、道德の時間や各教科・領域との関連を通して、さらに地域との連携を密にした教育活動の実践に努め、豊かな心をはぐくみたいと考え本課題を設定した。

(2) 研究の内容

- ① 道德の時間や特別活動、総合的な学習の時間における人権教育の充実
- ② 体験・交流活動ができる場の設定

2 実践内容

(1) 道德の時間の取り組み

ア 道德プログラムでの取り組み

場面絵や発問の工夫、GTの活用に加え本年度は各学年とも、めざす児童像に向けて、他教科や地域との関連も図った道德プログラムを作成して、道德の授業を行ってきた。自分の内面を見つめ考えを深められるようにすることから、さらに実践力まで高めようとしたものである。また、どの学級も年に1度は道德の授業を保護者に公開するようにした。

イ 心の伝言板の設置

他者とのかかわりの中で、心に響いたことや温まったことを書き出し、みんなに紹介できる掲示コーナーを設置した。多くの感動体験を共感できるようにした。

(2) 総合的な学習の時間における体験的な活動

ア 福祉体験活動(第5学年)

人権尊重の教育に関わる内容を体験的に学ぶことによって、人権意識を高めたいと考えた。車イスやアイマスク、高齢者の疑似体験などの活動を通して、身体障害者や高齢者の日常生活の大変さを知り、社会的弱者や困っている人にどのような手助けができるかを学んだ。

イ 福祉体験活動(第5学年)

夏季休業等を利用して、地区の福祉協議会主催の福祉活動に参加した。

(ア) 配食サービス

ボランティアの方と一緒に、地域に住む一人暮らしのお年寄りにお弁当を届けた。

(イ) さわやかクラブ

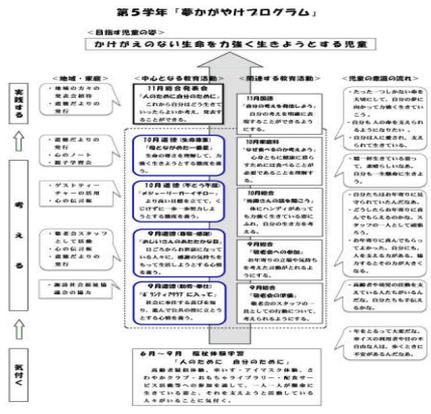
お年寄りが集まり、楽しく体を動かしたりゲームをしたりする体力つくりの場に参加し、一緒に活動した。

(ウ) おもちゃライブラリー

未就学の乳幼児が、遊びを通して人間関係づくりをしていくプログラムのお手伝いをした。

(エ) 敬老会

毎年行われている諏訪地区敬老会のお手伝いに参加し、会場の案内をしたりお茶を出したりして、お年寄りとの交流を持った。また、その際お年寄りに配る励ましの手紙については、3年生以上の児童全員で取り組んだ。



### (3) その他の活動

#### ア 縦割り集団活動（児童会）

全校を縦割りグループに分け、年間を通して様々な集団活動に取り組むことによって、異年齢児童相互の親睦を深めたり、他者への思いやりの心を養ったりすることを目指した。

#### (ア) 1年生を迎える会

入学してきた1年生が早く学校生活に慣れるよう、6年生を中心としてゲームなどを行い、交流を深めた。

#### (イ) ロング昼休みの活動

毎週水曜日は昼休みを40分とっており、学級ごとのレクリエーションの他、各学期に1度縦割り集団による遊びを実施した。高学年がリーダーシップをとり、事前の話し合いなどから当日の準備や進行を行った。

#### (ウ) クリーン活動

学期に一回、校舎の周りや校外へ出て、ゴミ拾いなどを行った。

#### イ 異学年交流

1年生と6年生の異学年交流給食や2年生と5年生がロングの昼休みに一緒に鬼ごっこや長縄で遊ぶなど、異学年交流のばを積極的に設け、相手を思いやって行動する実践力を育ててきた。

#### ウ 朝の会・帰りの会での取り組み（全学年・全学級）

学校生活における人権教育は、朝から始まって帰りまで、すべての活動にかかわっているものである。そこで、一日のスタートとゴールである朝の会・帰りの会でのスピーチ（児童）や説話（教師）を工夫した。

#### エ 各教科を中心とした話し合いでの取り組み（全学年・全学級）

本校では、一人一人を大切にするというねらいから、話し合いの時「ハンドサイン」を活用している。ハンドサインは友だちの考えや意見をよく聞いていないと使えない。さらに、自分の考えや思いをはっきり話さないと、使えない。発達段階に応じて、よく聞く・しっかり話すという指導をていねいに行いながら、ハンドサインの活用に取り組んできた。

#### オ 集団登下校を通して（全児童）

本校の特色の一つでもある「集団登下校」では、高学年が班長・副班長として列の先頭と最後尾について、下級生の歩調に合わせながら安全に登下校している。保護者と地域の方の協力をいただきながら、毎日元気よく行っている。

## 3 成果

道徳の授業を充実させたことで自分の内面と触れあい、考えを深めることができた。心の伝言板コーナーでは他者との関わりに目を向け、互いの良さを認め合える場となった。様々な福祉体験活動により、助け合うことの大切さを感じる事ができた。異学年の児童が交流する縦割り班活動では、高学年の児童が上級生としての自覚をもって、下級生の面倒を見ながら中心となって活動する様子が見られた。

## II 今後の課題

- (1) 高齢者や障害者など、自分たち健常者とは異なる立場の人々に対しては思いやりの心をもって接することができるが、身近な友人や地域の人々に対しても同じ態度で接していけるようにしたい。
- (2) 教職員や家庭、地域社会が、人権に対する意識を高められるような啓発活動を工夫していくことが必要である。学校と家庭、地域社会が協力・連携しあい、地域全体でよりよい人権尊重の教育を展開していきたい。
- (3) 道徳・特別活動・各教科など、教育活動全体を通して人権教育を推進していくように努め、道徳的実践力がさらに高まるよう、一人一人を大切にしたい指導を行っていきたい。

## III 人権コーナー設置の様子

本年度、人権メッセージに全校児童で取り組んだことを機に、人権コーナーを設置した。現在は各クラス代表のメッセージが掲示してある。近くには道徳便りも掲示してあり、その内容は人権に関わるものも多い。来年度は、JRC活動との関連も図れそうである。

